

厚岸町海事記念館



通信

2008.5.

No. 8

海事記念館特別展「カレイ展」を終えて

みなさん、マツカワの稚魚^{ちぎょ}は見ていただけでしょうか。平成19年度海事記念館特別展「カレイ展」^{せいきょう}は盛況^{まくと}のうちに幕^{まく}を閉じました。今回の展示^{てんじ}では、独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所及び同研究所厚岸栽培技術開発センターの全面的な協力のもと、同センターで栽培^{さいばい}飼育^{さうい}をしているマツカワの稚魚^{ちぎょ}5匹^{ひき}を水槽^{すいそう}で展示^{てんじ}することができました。実は、展示^{てんじ}するにあたって、同センター職員の協力無くしては実現できませんでした。というのも、職員の方が週に一度、稚魚と海水を交換^{こうかん}するために、海事記念館にわざわざ来てくれたのでした。職員の方によると、展示期間^{てんじきかん}(約1ヶ月半)内であれば、海水の交換^{えさあた}や餌^{えさ}を与えなくても問題ないが、やはり、元気な稚魚^{ちぎょ}を来てくれた人に見てもらいたいということでした。本当に頭が下がる思いでした。また、来館^{らいかん}してくださった方には、こちら水産総合研究センターのご厚意^{こうい}で、同センターの名前の入ったボールペン^{ぼーるぺん}を先着100名にお渡しすることができました。その他、多くの関係機関のご協力の下、特別展^{くわいさい}を開催^{かいさい}することができました。この場を借りて感謝申し上げます。



展示風景



厚岸栽培技術開発センター職員によるマツカワの稚魚の交換

〈お知らせ〉プラネタリウム「春の星座とおとめ座の話」を投影中!!

海事記念館プラネタリウム室では現在「春の星座とおとめ座の話」を投影中です。北斗七星やおおぐま座・こぐま座といった春の代表的な星座についての解説や星座にまつわる神話のアニメーション「おとめ座物語」を上映しています。ぜひ、この機会に春の星座の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

投影時間：平日 15:30～

土・日・祝日 11:00～、13:30～、15:30～

観覧料：海事記念館入館料のみ(大人210円、高校生以下無料)

文化財係 厚岸かぐら同好会が表彰されました

去る3月19日、厚岸町役場において、厚岸町無形文化財「厚岸かぐら」の伝承活動に取り組んでいる厚岸かぐら同好会が(財)伝統文化活性化国民協会(会長平山郁夫)より「平成19年度ちいきでんとうぶんかこうろうしゃ^{ひょうしょう}地域伝統文化功労者」として表彰されました。

当日は、厚岸かぐら同好会のみなさんが衣装を身にまとい、上田充北海道教育庁釧路教育局長から表彰状と記念品として同協会の会長で日本画家でもある平山郁夫氏による富士山をモチーフにした陶板画が授与^{じゅよ}されました。式には、若狭町長をはじめ、富澤教育長など多くの方々が列席しました。

この賞の主催者^{しゅさいしゃ}である(財)伝統文化活性化国民協会は、平成13年に全国各地における伝統文化の活性化を図り、文化向上に寄与することを目的として設立された財団法人で、伝統文化活動の支援^{しえん}、功労者の表彰^{こうぼうし}、広報誌の発行・頒布^{はんぷ}、シンポジウムの開催などの諸事業の他、文化庁委嘱事業^{ぶんかちょういしよくじぎょう}「ふるさと文化再興事業」「伝統文化こども教室事業」などの事業を展開しています。これら事業の一環^{いっかん}として今回表彰されたわけですが、賞は全国の伝統文化に貢献している個人・団体が対象です。北海道からはこれまで2件の受賞があり、いずれも個人での受賞でした(平成14年度木村修氏〔松前神楽〕、平成16年度青坂満氏〔江差追分〕)。団体としては厚岸かぐら同好会が初めてとなります。

今回の受賞が、日々、伝承活動に努め^{こうけい}後継者育成^{はげ}に励んでいる厚岸かぐら同好会にとって、さらには私たちの町に伝わる貴重な民俗芸能^{きちょう 民ぞくげいのう}「厚岸かぐら」にとって、より一層の発展^{いっそう はってん}につながればと願ってやみません。

取材を受ける平下弘同好会会長



厚岸かぐら同好会会員と若狭町長、富澤教育長とともに記念撮影

郷土館と太田屯田開拓記念館が開館しました

冬期間、閉館していた厚岸町郷土館と太田屯田開拓記念館が4月16日から開館しました。

厚岸町郷土館では、大きく5つのテーマにわけて展示しています。町内各所にある遺跡の紹介や発掘調査の現状についてなどを説明している埋蔵文化財のコーナー、アイヌ語地名や国指定史跡国泰寺跡などに関する資料を展示した歴史コーナー、

明治23年に刊行された『北海立志図録』をもとに作製した明治時代の建物の模型や古写真によって明治・大正時代の厚岸の街並みを紹介したコーナー、実物資料を配した昭和の暮らしと道具のコーナー、そして、私たちの町が有する、国や北海道、厚岸町が指定する貴重な文化財を紹介するコーナーとなっています。

一方、太田屯田開拓記念館は、厚岸町の太田地区に入植した屯田兵を中心とした展示を行っています。明治7年に明治政府により屯田兵条例が制定され、明治23年に最後の士族屯田兵として440戸の人たちが太田に入植しました。明治37年、この制度が廃止となり、屯田兵とは異なる道を歩むこととなります。そして、現在、酪農業を中心とした太田の歴史へと続いていきます。開拓記念館では、これまで太田地区がどのように歩んできたかを豊富な資料をもとに展示解説しています。

ぜひ、郷土館・太田屯田開拓記念館に来ていただいて、厚岸の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



厚岸町郷土館展示風景



太田屯田開拓記念館展示風景

文化財係 大黒島海鳥繁殖地観察会開催のお知らせ！



海事記念館文化財係では、体験学習セミナーとして、国指定天然記念物「大黒島海鳥繁殖地」の観察会を開催します。大黒島の灯台下にあるトッカーリ岩周辺にいるゼニガタアザラシや、岩壁や斜面で休んでいるオオセグロカモメなどを観察したり、大黒島の海岸散策などを通して、島の豊かな自然に触れ、

野生生物に対する知識を深め、天然記念物の保護保存の重要性について学びましょう!!

参加者募集

日 時 : 平成20年6月7日(土)9時から15時
(悪天候の場合は、6月8日(日)に順延とします)
集合場所 : 厚岸町海事記念館
対象 : 小学4年生以上(小学生には保護者が同伴してください)
定員 : 15人
申込締切 : 5月30日(金)まで
参加料 : 2,500円(保険料500円)
申し込み・問い合わせ : 海事記念館文化財係 ☎52 - 4040

今年も、町内港町においてアッケシソウの栽培を開始します。現在、港町では、栽培地の耕運作業の真っ最中です。みなさんご存知のように、アッケシソウは、潮の干満の差により海面より出たり沈んだりを繰り返す、波打ち際などに多く生育しています。そのため、土壌は常に水分を多く含んだ状態になっています。しかし、港町の栽培地は波打ち際ではありません。人工的に海水(厚岸湖の水)を撒布しないと干上がってしまいます。そのため、土壌表面は堅く乾燥し、アッケシソウが育つには適したものとは言えません。そこで耕運作業が必要になってきます。



港町のアッケシソウ栽培地での耕運作業

また、土壌の表面には、昨年の秋に落ちた種が密集しているため、このままだと密集した状態でアッケシソウが発芽してしまいます。アッケシソウが密集して発芽し成長すれば、秋に赤く色づいて赤い絨毯のようになってきれいじゃないかと考える人もいるかもしれませんが、残念ながらそうはならないのです。実は、密集するとアッケシソウが育たないんです。先程も述べたように自然に生えているアッケシソウは潮の満ちひきによって土壌に水がかぶる状態にあります。その際、落ちた種は流され、自然に分散されると考えられます。ところが、人工的に育てている港町の場合、この潮の満ちひきによる種の移動は期待できません。そのためか、4区画のうち、一昨年に栽培した区画は、その年の秋に種がたくさん落ち、次年度にあたる去年は密集しすぎて全くといっていいほど成長しませんでした。いろいろな理由が考えられますが、この区画については一年目の秋に種がたくさん落ちてそのままにしておいたことが原因の一つではないかと考えています。

今年は、その点も考慮に入れて、4区画全てを耕運し、2区画については春先に種をまかすにおくことにしました。つまり、耕運した土壌の中に含まれる昨年の秋に落ちた種だけということです。残りの半分の2区画は春先に種をまきます。

さて、このことが功を奏するのか、今年の秋が今から楽しみです。でも、それまでちゃんと成長してくれるか、そっちの方が気がりではあるのですが…。何はともあれ、今年もアッケシソウを育てていきたいと思います。

編集後記

4月16日から厚岸町郷土館が開館したとお伝えしましたが、埋蔵文化財のコーナーに大正時代の発掘風景を写しだした写真が展示されています。この写真は、京都大学理学部自然人類学研究室が所蔵しているもので、大正15年(1926)の7月末から8月初めにかけて、京都帝国大学(現京都大学)医学部教授だった清野謙次博士が厚岸町内でおこなった発掘調査を写しだしたものです。それから80年以上を過ぎた現在、慶應義塾大学の高山博教授が中心となり大正当時の発掘箇所の再確認調査を行っています。

そこで驚くのは、清野謙次が発掘した当時の地形と現在再調査している場所のそれとがほぼそのままの状態に残っている場合があるということです。同じ場所で発掘ができるということは、それだけ人の手が加えられていないということの意味するだけでなく、現在の分析技術で

「厚岸町海事記念館通信」第8号 2008.5.発行
【編集・発行】
厚岸町海事記念館
〒088-1151 北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地
Tel/Fax (0153)52-4040

80年前では得られなかった詳細な情報を得ることができるということでもあるわけです。調査、研究とは、時代を超えても生き続けるものだと、改めて感じました。(車塚)